

6. 原子力分野の技術者、研究者の育成、人材基盤の確保のための提言

○原子力分野の技術者、研究者の育成、人材基盤の確保のための提言

- 1 理系、特に工学系への進学者を増やすための初等中等教育への取組の強化
- 2 原子力の必要性、安全性等の正確な知識の教育、伝達
- 3 原子力の技術、研究、産業等の魅力、将来性を社会、特に若い世代に伝達し、学生の進路選択に際し、原子力への志向性を向上
- 4 原子力専門教育の体系再構築と充実強化
- 5 国際人材の養成
- 6 原子力新規導入国への国際展開に対応する人材育成体制の整備
- 7 原子力分野の技術継承の仕組みの確立
- 8 人材育成活動の機能に応じたネットワーク化やその中心となってコーディネート、コントロールするハブ設立の推進
- 9 我が国原子力人材育成の体系化と可視化
- 10 原子力人材育成を戦略的に進めるための中核的恒常機関(原子力人材育成全体のハブ)の設立

これまでに導かれた、実施することが必要な課題を提言として取りまとめる。

提言1 理系、特に工学系への進学者を増やすための初等中等教育への取組の強化

- ・エネルギー環境教育のカリキュラムへの取り入れ
- ・新学習指導要領に基づいた原子力発電や放射線教育に関する授業の実施
- ・上記授業実施のための支援の充実強化と支援の効率的運用のためのネットワーク化
- ・オープンキャンパス等により高校生に原子力の魅力を伝え、工学系、特に原子力工学系への関心を高める

提言2 原子力の必要性、安全性等の正確な知識の教育、伝達

- ・教科書出版社への正確な情報の提供
- ・教員への正確な情報の提供や研修機会や支援の強化とネットワーク化による効果的实施
- ・副読本・補助教材の提供、出前授業等の支援の充実・強化とネットワーク化による効果的实施
- ・受け手の注意、関心を捉える情報発信

提言3 原子力の技術、研究、産業等の魅力、将来性を社会、特に若い世代に伝達し、学生の進路選択に際し原子力への志向性を向上

- ・原子力が今後世界的に大きく拡大していくことの社会や児童、生徒、学生への普及活動
- ・具体的な原子力プロジェクトの確実な進展、特に、我が国原子力産業の国際展開の実現
- ・学生への産業説明会やインターンシップを通じた情報提供
- ・活力ある原子力職場の実現
- ・原子力工学系以外の学生への原子力基礎教育の提供

提言4 原子力専門教育の体系再構築と充実強化

- ・基礎・基盤分野の教授人材の確保、育成
- ・教授人材確保の観点から教育貢献に関する評価基準の明確化
- ・産業界から共同研究、講師派遣、施設見学会開催等の教育支援の強化、充実
- ・講義の単位共通化等講義や教授人材のネットワーク化

- ・教育・研究用原子力施設の共同利用による実験、体験機会や内容の充実とネットワーク化
- ・教科書、教授人材、教育研究用施設等教育資源の国際連携
- ・各大学の専門性、得意分野を活かす等特色ある大学の取組に対する支援（選択と集中）
- ・原子力施設が立地する地域の大学、研究施設、産業の連携を生かした先端技術から実践までの幅広い教育の実施

提言5 国際人材の養成

- ・国際機関で働く日本人職員の増加、国際会議への積極的参画
- ・国際的キャリアパス、帰国後の処遇の可視化
- ・国際的教育活動への参加支援、英語による授業等の環境整備
- ・専門技術分野に加え、国際感覚を備え、原子力固有の国際的共通課題について知見を有する人材の養成

提言6 原子力新規導入国への国際展開に対応する人材育成体制の整備

- ・原子力新規導入国への人材育成方策の提案のための我が国人材育成体系の整理
- ・原子力新規導入国技術者育成のための、受入れ、教授人材派遣体制の整備

提言7 原子力分野の技術継承の仕組みの確立

- ・原子力技術に関する暗黙知の形式知化推進による技術継承の確実化
- ・原子力技術に関する形式知と暗黙知を維持・継承する仕組みの確立

提言8 人材育成活動の機能に応じたネットワーク化やその中心となってコーディネート、コントロールするハブ設立の推進

- ・人材育成活動を教育段階、専門領域、施設、人的資源、地域等の視点からのネットワーク化の推進

(ネットワークの例)

大学間の共通講座のネットワーク、大学等の教育・研究施設共同利用のネットワーク、初等中等教育支援のネットワーク、実務段階の研修支援のネットワーク、国際人材育成のネットワーク、等

- ・個別ネットワークの中心のハブの設立

提言9 我が国の原子力人材育成の体系化と可視化

- ・育成段階毎に活動を横通しするネットワークと全体を統括するネットワークの導入による原子力人材育成の体系化、原子力人材の品質保証
- ・原子力人材育成の総合的連携化の成果としての外部からの可視化

提言10 原子力人材育成を戦略的に進めるための中核的恒常機関（原子力人材育成全体のハブ）の設立

- ・要員や予算が配分され、産官学を強力に調整する中核機関を設立
- ・中核機関は、個別活動の自主性・自立性を尊重しつつ、全体調整と対外的窓口の役割

原子力人材育成関係者協議会の活動は、産官学の関係者がボランタリーに集まり、検討を続けてきた。原子力分野の技術者や研究者を育成していくため、最近の状況変化をも踏まえた対応方策を実現するためには、要員や予算が配分され、産官学を強力に調整できる常設の機関（ハブ）により実施していくことが必要な段階となった。

常設の機関（ハブ）は、我が国の原子力分野の人材育成活動全体を調整し、グローバルな人材育成の窓口となる。初等中等教育段階、高等教育段階、実務段階と、それに同時並行する国際的に活躍する人材育成活動のネットワークを包含し、それぞれの、または、相

互間のネットワークを通じて、人、モノ、金の資源配分をコーディネートし、計画的で合理的なものとし、全体として適正化を図ることが期待される。ある特定の目的のために設立され活動しているネットワークを含め、個々の活動について自主性、自立性が尊重されることは言うまでもない。

従って、協議会の活動は、常設の機関に発展的に引き継がれていくこととする。